

銅・アルミ

市況見通し

2月

銅

昨年12月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で10・2%減の5万6170トで、12カ月連続のマイナスだった。4カ月ぶりに6万トを割った。

12月の銅電線出荷量は同0・9%減の5万3300トで、うち国内が同11・9%減、輸出が同263・8%増だった。銅輸出は、電気銅が同12・2%増の5万372ト、銅スクラップが同4・4%減の2万7967ト。日本からの銅スクラップ輸出は、輸出量全体の約4分の3が中国向け。この割合は前年の6割弱から大きく拡大した。輸出量2位のマレーシア向け輸出量は、全体の12・7%を占めた。ただ、マレーシア向けの割合は2年

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート



12月の銅スクラップ輸出量は2万7967トで同4・4%減。前年同月比では2カ月ぶりのマイナス。ただ、2022年曆年の銅スクラップ輸出量は毎月3万ト弱と、毎月安定した数量で推移した。

2月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8000~9500 ^F ル	強い
電気銅建値	109~132万円	強い
為替（1 ^F ル）	130~135円 （1カ月間T/M）	円高

前の32・1%、前年の0・25%となった。た23・7%と年々縮小し、1月の米雇用統計は雇用者数は市場予想を大きく上回って伸びている。12月の銅輸入は、電気が同95・7%減の28ト、銅スクラップが同2・5%増の1万2665トだった。銅スクラップ景況予想 1月の電気銅建値は、月初の114万円から一時127万円への上昇。米・FRB（連邦準備制度理事会）の利上げによる下落警戒や年末要因により、と流通（二次問屋）における2月の在庫は品薄となった。需要面は世界的なコロナ規制の緩和に伴い、需要および生産は大幅に回復すると見ている。

LME銅為替予想

今月は「米の金融政策」に左右される。前者では、米国の金融政策は年末からFRBの利上げ緩和観測が台頭し直近の利上げが

アルミ

2月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2300~2700 ^F ル （現物後場買い）	強い
スクラップ	プラス10円 （前月最終価格より）	強い

昨年12月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同6・7%減の14万3290トで9カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同5・5%減の8万7517ト、押出類が同8・5%減の5万5773トだった。12月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同2・3%減の6万528ト（4カ月のうちのマイナスイナス）。輸出はアルミ新地金同3・5%減の6万417ト（4カ月のうちのマイナスイナス）。輸出はアルミ新地金が同82・5%増の250ト、アルミニウム二次合金が同40・4%減の1191ト、アルミスクラップが同52・9%増の3万4303ト、アルミニウムが同60・6%減の2110ト。アルミ輸出は、中国向けや円安を受けてスクラップが増加した。輸入はアルミ新地金が同6%減の10万26ト、アルミニウム二次合金が15・2%減の8万5400ト、アルミスクラップが同30・5%増の805ト、アルミニウムスクラップが同16・8%減の6872トだった。アルミ輸入は、内需回復や円安からスクラップが増加した。

アルミスクラップ景況予想

欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2200~2600と安定。流通（二次問屋）の在庫および入荷は、自動車生産が回復基調にあるものの住宅着工の低迷で少ない見通し。需要面は世界的なゼロコロナ政策の緩和により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。